

平成31年3月定例会議 一般質問通告一覧表

(質問順)

質問月日	質問者	質問事項	
3月4日 (月曜日)	15番 竹花 邦彦 議員 (新風クラブ)	1 宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略について	P 1
		2 小中学校の適正配置計画の推進について	P 1
	19番 藤原 光昭 議員 (新風クラブ)	1 人口減少に伴う雇用の場の拡大について	P 3
		2 廃校舎の利活用について	P 3
		3 水道事業の運営について	P 4
3月5日 (火曜日)	16番 落合 久三 議員 (日本共産党)	1 復興の先を見据えた産業振興策について	P 5
		2 健康を支える特定健診推進について	P 5
		3 ウォーキングを活用した健康増進の取り組みについて	P 6
	7番 熊坂 伸子 議員 (ネクストみやこ)	1 旧宮古警察署取得について	P 7
		2 宮古市の行政評価の現状と課題について	P 7
	3 平成31年度宮古市教育行政方針について	P 8	
3月5日 (火曜日)	3番 西村 昭二 議員 (ネクストみやこ)	1 鳥獣被害対策について	P 9
		2 公園の樹木の維持管理について	P 9
	5番 小島 直也 議員 (公明党)	1 風疹の抗体検査、定期接種の実施について	P 11
		2 消費税増税に伴う支援策について	P 11
	20番 田中 尚 議員 (日本共産党)	1 「拠点都市」となるべき基盤整備のあるべき姿について	P 12
	2 「活力に満ちた産業振興都市」について	P 12	
	3 行財政改革について	P 13	
3月5日 (火曜日)	6番 鳥居 晋 議員 (復興を考える会)	1 一次産業、加工業の振興策について	P 14
		2 みやこサーモンケアネットの利用について	P 14
	8番 佐々木 清明 議員 (尽政クラブ)	1 高齢者の運転免許証自主返納について	P 15
	17番 松本 尚美 議員 (無所属クラブ)	1 平成31年度宮古市経営方針について	P 16

平成31年3月定例会議 一般質問通告一覧表

(質問順)

質問月日	質問者	質問事項	
3月6日 (水曜日)	4番 畠山 茂 議員 (新風クラブ)	1 「子ども・子育て環境の課題」について	P 18
	9番 橋本 久夫 議員 (ネクストみやこ)	1 三陸鉄道一貫運行について 2 インバウンド対策とポートセールスについて	P 20 P 20
	21番 工藤 小百合 議員 (ネクストみやこ)	1 市職員の不妊治療にかかる休暇について 2 施設設置のAEDの持ち出し利用について 3 避難所の自動開錠について	P 21 P 21 P 22
	1番 白石 雅一 議員 (復興を考える会)	1 「宮古市子どもの権利条例(仮称)」について 2 旧宮古警察署の取得、整備について 3 地域農業マスタープランについて	P 23 P 23 P 23

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月4日(月)

質問順位 1番

質問者 議席番号 15番 竹花邦彦議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略について	<p>市長は平成31年度宮古市経営方針の「基本姿勢」において、「宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、「総合戦略」）について、これまでの取り組みを検証し、本市の将来像に向かって各施策を推進すると決意と所信を示された。</p> <p>「総合戦略」の計画期間が最終年度を迎えようとしているが次の点を伺う。</p> <p>① 「総合戦略」では、3つの基本目標の実現に向け各種施策が取り組まれているが、「総合戦略」の目指すべき目標は人口減少の抑制と定住促進を図ることにある。この間の取り組みを踏まえ、人口減少抑制と定住・移住促進の点について、市長はどのように評価をしているのか伺う。</p> <p>また、人口の社会的動態の減少抑制に向けた取り組みに係る市長の課題認識を伺う。</p> <p>② 人口減少の抑制と定住促進は「総合戦略」期間終了後も重要かつ追求すべき市政課題となる。「総合戦略」に掲げる施策や数値目標等は宮古市総合計画等に引き継がれることになるのか。計画終了後の展開についての考え方を伺う。併せて、施策や事業の効果検証の今後の仕組みについての考え方を伺う。</p> <p>③ 若者の定住・移住促進に向け、低家賃での住宅提供施策について検討すべきと考えるがどうか。市長の所見を伺う。</p>	
2 小中学校の適正配置計画の推進について	<p>伊藤教育長は、平成31年度宮古市教育行政方針の中で、小・中学校適正配置について、保護者や地域の方々と課題を共有し、十分な協議のもと進めて行くと所信を述べられた。</p> <p>現在、藤原小・高浜小・赤前小・亀岳小・田老第三小の統廃合計画が進められているが、現計画の推進状況と今後の課題点等について、次の点を伺う。</p> <p>① 平成31年度までの新たな「小・中学校適正配置実施計画」である市内5小学校の統廃合計画の現在の協議状況を伺う。また、保護者や地域から上げられている課題点と市教育委員会の課題対応についての考え方を伺う。</p>	

質問事項	質問要旨	摘要
2 小中学校の適正配置計画の推進について	<p>② 市教育員会は小規模校の今後のあり方等を検討する目的で、新里地区を中心に「四つ葉の学校」を実施し、学習・スポーツ等の活動交流を行ってきた経過がある。</p> <p>子どもたちの教育環境整備を第一に考えることは当然だが、少子化が進む中で、統廃合だけでなく地域と小規模校が両立できる仕組みをどうつくっていくかという視点も今後は一層、重要になると考える。</p> <p>については、今後の適正配置計画の推進において、「四つ葉の学校」の経験と検証を踏まえた、小規模校における子どもたちの教育環境充実を目指す方向性も検討すべきと思うがどうか。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月4日(月)

質問順位 2番

質問者 議席番号 19番 藤原光昭議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 人口減少に伴う雇用の場の拡大について	<p>大震災による復興特需も終息傾向にあり、人口減少が加速する中で、沿岸の有効求人数も製造業を中心に減少する一方、求職数も減る方向にある。産業の停滞・経済の落ち込みへの不安が多く聞かれる。</p> <p>復興後のまちづくりは、産業振興、特にも働く場の拡大は緊急の課題だ。若者が働き定住者が増えなければまちは衰退の一途を辿る。そこで次の点について伺う。</p> <p>① 市長は経営方針において、本市の将来像に向かって人口減少対策や定住促進に取り組むとしているが危機感が感じられない。雇用の場の拡大について市長の強い意志と姿勢を押し量ることが出来ないが改めて決意を伺う。</p> <p>② 内陸県南は、半導体製造大手東芝メモリーを始め、自動車、金型関連企業や木材関連新工場の建設に伴い企業の集積が活発だ。内陸部に集約化の動きも見られ人材獲得競争が激化し流出が加速するのではないかと、その影響は大きいと思うが市長の現状認識について、また、対策についても伺う。</p> <p>③ 宮古管内の人手不足、雇用情勢等について官民での情報交換が重要と思うがなされているのか。また、管内の産業別の雇用状況と地場企業の育成強化対策について伺う。</p> <p>④ 総合計画において、地域の特性に合った業種について積極的な企業誘致が必要と述べている。市長は企業訪問に奔走しているが、その成果と課題について伺う。</p>	
2 廃校舎の利活用について	<p>宮古市内小学校の統廃合による廃校舎の多くは活用策が示されていない。今後の有効活用について各学校区の地域住民より要望や意見を伺い、政策調整会議で検討することとあった。そこで、次の点について伺う。</p> <p>① 各学校区の地域住民との意見交換が行われていると思うが、その状況及び内容について伺う。</p> <p>② 地域住民から要望が出されているとすれば地域に合った施設の利活用については、当局も積極的に対応し協働して地域振興を図るべきと考えるが所見を伺う。</p>	

質問事項	質問要旨	摘要
3 水道事業の運営について	<p>昨年12月に水道法の一部を改正する法律が成立、公布された。この改正には、人口減少に伴う水の需要の減少、水道施設の老朽化に対応し、水道の基盤の強化を図るため、広域連携や適切な資産管理、官民連携の推進などが盛り込まれている。</p> <p>そこで、次の点について伺う。</p> <p>① 市は、近隣の市町村との広域連携について、どのような取り組みをどのように具体化しようとしているのか伺う。</p> <p>② 官民連携について、現在の取り組み状況を伺う。</p> <p>③ 官民連携の推進では、水道施設の所有権は自治体が所有したまま、水道施設の運営権を民間事業者に設定する「コンセッション方式」の導入が可能となるが、水道は市民生活に欠くことのできない重要なインフラである。安心、安全な水の供給を守り、水道事業を安定的に維持するため引き続き市が運営すべきと考えるが、市長の見解を伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月4日(月)

質問順位 3番

質問者 議席番号 16番 落合久三議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 復興の先を見据えた産業振興策について	<p>この度示された平成31年度の経営方針において、復興事業の総仕上げの年として、未来を切り開くまちづくり「宮古創生」に全力で取り組むことなどが強調されている。これらの視点を踏まえ、以下の産業振興策について市長の見解を伺う。</p> <p>① 「活力に満ちた産業振興都市づくり」の中で「つくり育てる漁業」策として、「海面及び陸上養殖の可能性についての調査」が新たに示された。魚資源の減少が深刻化する中でそれを打開する一つの方策であると考え、今回示された魚種選定の根拠及び事業化への見通しについて伺う。</p> <p>② 漁業担い手育成対策について「地域外からの新規就業者を確保する施策の強化」が強調されているが、それを可能とする受け入れ条件の整備をどのように推進しようと考えているか伺う。</p> <p>③ 平成30年度末の復興計画の進捗を、事業費ベースで95.7%見込んでいる現在、復興の先を見据えた事業展開、言わば「地域内循環型経済・公共事業」が求められている。しかし、イーストピアみやこや市営駐車場の管理運営は市外の大手企業に委託され、偏重していると思われる。市長が目指す市民所得の向上には、地元企業や商工業者に仕事とお金を回す必要があると考える。今後、入札に関する要件などを定める場合には、「地元企業の支援、育成」の姿勢を貫くべきだと思うがどうか。</p>	
2 健康を支える特定健診推進について	<p>経営方針において、「活力あるまちの創生には市民の健康が第一」と強調している。特定健康診査はその大きな一助となるが、市の「第2期データヘルス計画」によると、その受診率は平成29年度実績で40.7%、さらに特定保健指導実施率は11.9%と伸び悩んでいる。今後は、当該健診受診率及び保健指導率の平成35年度の目標をそれぞれ60%及び45%に引き上げ、医療費抑制を図っているが、以下の点について市長の見解を伺う。</p> <p>① 特定健診受診の方法を「公共施設等に来てもらう」方式だけでなく、市の3診療所をはじめ民間医療機関とも提携して、医療機関で受診できるように取り組むべきと思うがどうか。</p>	

質問事項	質問要旨	摘要
2 健康を支える特定健診推進について	② 特定健診の受診を推進するため、モデル地域を設定し、町内会や地域の保健推進委員の協力などを得て推進すべきだと思うがどうか。	
3 ウォーキングを活用した健康増進の取り組みについて	<p>平成27年12月定例会の一般質問において、同僚議員がポイント制度を活用した健康増進策の検討について質問・提案し、以後、機会を捉えて市の取り組み状況を確認しているが進展が見られない。</p> <p>昨年3月の定例会で同僚議員が紹介した横浜市の事業「よこはまウォーキングポイント」は、参加登録者がすでに30万人を超えて目標を突破した。また、「第5回健康寿命をのばそうアワード」の自治体部門で優秀賞を受賞しており、全国的にも注目され、視察も増えていると聞く。</p> <p>市民が気軽に参加でき、健康増進だけでなく商店街の売り上げにも寄与しているこの事業を参考に、本市でも同様の事業に取り組む考えはないか伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月4日(月)

質問順位 4番

質問者 議席番号 7番 熊坂伸子議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 旧宮古警察署取得について	<p>東日本大震災から8年が経過しようとしております。多くの被災地で公共施設の管理面積が増えていますが、復興事業が終息に向かい、人口や税収の減少が見込まれる中で、施設の維持管理費や建て替え、あるいは更新の費用が自治体財政を圧迫することが懸念されております。宮古市においても公共施設再配置計画において施設の統廃合や補修等による経費の縮減を計画してきたところですが、平成31年度宮古市経営方針には、旧宮古警察署の取得が明記されております。</p> <p>市長はどのようなお考えで旧宮古警察署の取得を決断したのか、その経緯と今後の利活用計画、及び維持管理費等の見込みをお伺いたします。</p>	
2 宮古市の行政評価の現状と課題について	<p>今定例会議初日に、来年度予算が提案されました。予算の前提として、政策の取捨選択が行政評価に基づいてきちんと行われるべきものと考えております。</p> <p>平成30年度の宮古市経営方針にはそのことが明記されておりましたが、平成31年度の宮古市経営方針ではわずかに「検証」という言葉のみで、行政評価への取り組み、あるいはお考えが後退した印象を持ちました。</p> <p>昨年度は、震災後、行政評価委員会による外部評価再開の初年度ということで、スケジュール的に翌年度の政策に十分反映できなかったという反省がございました。その反省を踏まえての今年度の予算だと承知はしておりますが、行政評価の結果が市の予算や事業に適切に反映されているのか、点検の必要性を感じております。</p> <p>そこで、本市の実施する行政評価である、施策評価、事務事業評価、外部評価について、実施時期や手法、翌年度以降の事業への反映状況など、それぞれの妥当性について、市長の認識をお伺いたします。</p>	

質問事項	質問要旨	摘要
<p>3 平成31年度宮古市教育行政方針について</p>	<p>今定例会議初日に教育長より平成31年度宮古市教育行政方針が示されました。内容を見ますと昨年度の教育行政方針と文言や事業があまり変わっておらず、新年度の重点施策などが分かりづらいように思われます。</p> <p>学力向上やいじめ、不登校問題等、宮古市の教育を巡る課題が山積する中で、思い切った施策を早急に打ち出していかなければならないと認識するものです。教育の成果は目に見えにくく、時間がかかるものと承知しておりますが、だからこそ、将来の宮古を支える人材育成が宮古市の最重要課題であり、スピード感を持ってとりかかるべきと思います。</p> <p>方針としては示されたところですが、新年度の教育行政にかける教育長のお考え、特にも重点施策にかける意気込み、熱意について、市民に伝わるようお聞かせください。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月4日(月)

質問順位 5番

質問者 議席番号 3番 西村昭二議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 鳥獣被害対策について	<p>近年、宮古市でもニホンジカ、クマ、ハクビシン、ニホンザルなどの野生鳥獣による農作物への被害や、クマによる建物の破壊などの被害が報告されております。更に、イノシシの目撃情報も増えており、今後の被害拡大が容易に予想できます。</p> <p>平成31年度宮古市経営方針の中に、増加する鳥獣による農作物被害を軽減するために、電気牧柵の導入支援や、猟友会(鳥獣被害対策実施隊)の活動を支援するとありましたが、実施隊員の高齢化や、イノシシの足音が迫っている現状から、次のことを伺います。</p> <p>① 有害鳥獣捕獲許可を現在の狩猟期間以外から、通年の事業としたほうがよいと思いますが、市長の見解を伺います。</p> <p>② 実施隊は多大な成果を出してはいますが、有害鳥獣の捕獲が間に合っていないのが現状です。そこで、非常勤職員を配置し、専門の担当課を設けてはどうかと思いますが市長の見解を伺います。</p>	
2 公園の樹木の維持管理について	<p>宮古市には合併後、市が管理する公園が多数あります。鉾ヶ崎、近内などに新設される公園、そして旧庁舎跡地も公園になる予定です。公園とは市民の集いの場、安らぎの場、憩いの場、健康管理をする場でなくてはならないと思います。</p> <p>市内の公園を回ってみると、市民が集い、歩いたり、軽度の運動をしたりすることに関しては、一定の役目を果たしていると思いますが、植えられている樹木については、病気にかかっている桜が目につくなど、手入れが行き届いてない印象を受けます。</p> <p>このままでは、安らぎの場、憩いの場としての公園の機能の低下が心配されることから、次のことを伺います。</p> <p>① 市内の公園の樹木の管理体制、管理計画はどのようなになっているか伺います。</p>	

質問事項	質問要旨	摘要
2 公園の樹木の維持管理について	<p>② 市内には桜が植えられている公園も多く、春には多くの市民の目を楽しませていますが、その品種のなかには病気に弱く、寿命が60年程度といわれるソメイヨシノが植えられている公園もあります。全国的には、より病気に強く長寿な品種のサクラへの植え替えを行う自治体もあるようですが、市内の公園で今後、そうした計画があるのか、ない場合は検討してはどうか伺います。</p> <p>③ 旧庁舎跡地の公園に、廃校になった学校の記念樹やシンボリックな樹木などを移植したり、接木によるクローンを植樹したりして、メモリアル公園的な機能を持たせることを計画してはどうかと思いますが、市長の見解を伺います。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月5日(火)

質問順位 1番

質問者 議席番号 5番 小島直也議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 風疹の抗体検査、 定期接種の実施に ついて	<p>国立感染症研究所によると、昨年12月10日から16日までの一週間に報告された風疹の新たな患者は127人。昨年一年間の患者数は2,500人を超えました。患者のほとんどが成人男性で、風疹の免疫を持つ人が少ないことが原因と考えられます。</p> <p>厚生労働省は本年4月から3年間、現在39歳から56歳の男性を対象に原則無料で抗体検査、ワクチン接種を実施することにしました。当市の取り組みについて伺います。</p>	
2 消費税増税に伴 う支援策について	<p>① 本年10月から消費税増税に向けて、国では対策の一つにプレミアム付き商品券の導入を計画しています。本市の経済にも影響がある事業だと思いますが、どのように事業を進めようとしているのか伺います。</p> <p>② プレミアム付き商品券は低所得者と子育て世帯が対象になっています。更に子育て世帯の負担軽減を図るために、支給対象年齢を拡大するなど、市独自の支援策を検討すべきと思いますが、見解を伺います。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月5日(火)

質問順位 2番

質問者 議席番号 20番 田中 尚 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 「拠点都市」となるべき基盤整備のあるべき姿について	<p>① 市の上位計画である「宮古市総合計画(後期基本計画)」では、三陸沿岸地域の「拠点都市」となるべき基盤整備として市が基礎的なインフラに位置づける「利便性の高い道路交通網の整備」に取り組むとしています。大震災以降、市の幹線道路を縦横に走りまわるダンプカーは、復興事業の象徴として市民は受け入れて来ていますが、それにとまなう道路の損傷や周辺家屋への影響はどうなっているのか伺います。</p> <p>② イーストピアみやこも完成し、駅を中心としたまちづくりが期待されます。市民の通勤、通学の足が保障されれば、結果として鉄道の利用促進にもつながります。更なる利用促進のためのソフト事業の取り組みはどうなっているのか伺います。</p> <p style="padding-left: 2em;">同時に駅を核にバスと連携する「ワンコインバス」の創設も必要と考えますが、市の見解をお示し願います。</p>	
2 「活力に満ちた産業振興都市」について	<p>① 農業では「地域農業マスタープラン」の実現のため「重点振興品目、推進品目の生産拡大を図り、農業所得の向上」が課題ですが、そもそも農業所得の低さは何が原因と市は認識しているのか伺います。また、重点振興品目等の生産拡大に向け、今後必要となる施策として何を検討されているのか伺います。</p> <p>② 林業振興では、森林環境譲与税を活用した施策の拡充が重要です。林業の成長産業化に向けた今日までの市の計画と到達状況について伺います。</p> <p style="padding-left: 2em;">また、総合計画の「安全で快適な生活環境づくり」とも関連する「脱炭素社会に向けた再生可能エネルギーの普及促進」に向けて、木質バイオマス事業の具体化が見えてきません。山林の活性化にもつながる未利用木材の活用について伺います。</p>	

質問事項	質問要旨	摘要
3 行財政改革について	<p>行財政改革の目的は地方自治法に定める住民福祉の向上に寄与することではなくはなりません。市長も公共施設のあり方については「総合的かつ計画的な管理や有効活用に努める」と述べて長期的視点で具体化するとしています。この視点を基本にすれば現状維持でしかなく改革につながらない懸念が生じます。</p> <p>私は合併理念を原点に据えれば、無駄になりかねない公共施設の削減は避けられず、中でも総合事務所について言えば、建物の老朽度や面積に着目して庁舎施設の複合化、もしくは縮小を具体化すべきと考えます。それは同時に小中学校の統廃合にともなう廃校舎の有効利活用の具体化も重要な課題と言えます。</p> <p>新自由主義を柱に公的事業の市場化をもくろむ政府の政策に追随せず、公とは、あるいは公務員とは何か、地方自治の本旨を踏まえた行財政改革こそ求められていると考えますが、市長の見解と対応を伺います。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月5日(火)

質問順位 3番

質問者 議席番号 6番 鳥居 晋 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 一次産業、加工業の振興策について	<p>市長は今定例会議で宮古市経営方針の基本姿勢として「鯵ヶ崎地区においては、水産業、水産加工業の振興を核とする賑わい創出事業の検討を進める」とし、復興計画として「産業・経済復興については、第一次産業の復興・再生を図るため、総合計画と合わせ新規就業者をはじめとする担い手の確保・育成のための支援を継続する」と述べている。</p> <p>また、総合計画においても、「地元の農林水産物を活かし、国内外に向けた安心・安全、かつ高品質・高付加価値商品の安定生産を目指す取り組みを支援する」とも示されている。近年、一次産業、水産加工業は漁獲低迷、そしてそれによる魚価の高騰、労働力不足等により経営が圧迫されてきている。</p> <p>このような状況を打破すべきと考え、次の点について伺う。</p> <p>① 賑わい創出事業の検討は期待するところだが、その具体的な内容はどのようなものか。</p> <p>② 水産加工業の振興には労働力の確保が重要と思われるが、外国人労働者の居住環境への支援の考えはあるか。</p> <p>③ 水産加工業では震災後、機械化や冷凍冷蔵庫建設等の設備投資が進んでいる。これは漁業者への魚価安定への一役も担っている。サンマ、鮭の漁期以外の施設の維持管理費の支援の考えはあるか。</p> <p>④ 地元の農林水産物の高付加価値商品の開発の手立てとして、廃校を活用した企業誘致の可能性を探るべきと考えるがどうか。</p>	
2 みやこサーモンケアネットの利用について	<p>総合計画(健康でふれあいのある地域づくり)において、「市民がいつでも必要な医療を受けられる体制づくりが必要」と述べている。「サーモンケアネット」は、患者の投薬情報や検査情報を医療機関や薬局等で共有することにより、医療機関は患者に効率的な医療の提供ができ、患者にとっても安心感のある医療や介護サービスを受けることができるものである。利用状況と成果について伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月5日(火)

質問順位 4番

質問者 議席番号 8番 佐々木 清 明 議 員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 高齢者の運転免許証自主返納について	<p>高齢者の運転免許証返納者が年々増加している。本市においても同様であるが、買い物、通院など移動が不便になることから返納を躊躇している方もいる。</p> <p>高齢者の運転事故防止の観点からも免許証の自主返納を促す取り組みが必要であり、例として公共交通網等の整備やその利用にかかる助成、商品の無料配達サービスへの補助などが考えられる。</p> <p>平成30年6月定例会議において同僚議員が同様の質問をし、検討を進めるとの答弁があったが、現在の検討状況と今後の取り組みについて伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月5日(火)

質問順位 5番

質問者 議席番号 17番 松本尚美議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 平成31年度宮古市経営方針について	<p>1 宮古市経営方針はオール宮古のトップリーダーとしての市長の経営方針と認識しますが、市長の経営方針についての見解を伺う。</p> <p>2 多岐に渡る施策課題があり、具体的な取り組み等詳細に示すことは難しいことと理解しますが抽象的すぎて新年度における施策展開が見えません。このことについて、次の7点について伺う。</p> <p>① 全体として復興需要消滅後の当市経済の悪化の危機感が伝わらない。オール宮古で危機感をバネに乗り切るとの思いも感じられない。現状認識も含め市長の経済の認識を伺う。</p> <p>② 平成31年度は復興計画の最終年度としている。復興計画の中では、同時に発展期の最終年度でもある。発展したと評価できる経済的数値を示されたい。</p> <p>③ 企業誘致について予算計上も含め積極性、意気込み、熱意が感じられない。企業、投資の受け入れ環境の整備、拡充が喫緊の課題と考えるが、具体的な取り組みについて伺う。</p> <p>④ 観光振興について、交通ネットワークを活用することは当然としても、資源の掘り起こし、新たな魅力創出、創造が必要と考える。浄土ヶ浜園地周辺の魅力アップ、サーモンランドの再構築等提案してきたが、その後どのように検討されているのか伺う。</p> <p>⑤ 再生可能エネルギーの地産地消都市を目指すとするが、新年度の具体的な取り組みが予算計上にも見られない。バイオマス発電所等の誘致、立地の可能性も見えない。市長の見解を伺う。</p> <p>⑥ 農業振興について「地域農業マスタープラン」の実現のため、中心経営体の育成、確保をとあるが、単に県の施策のコピーではなく、当市の実情にあった施策展開が必要と考える。儲かる農業を構築しなければ、絵にかいた餅である。農業振興施策をゼロベースで見直すべきである。見解を伺う。</p>	

質問事項	質問要旨	摘要
1 平成31年度宮古市経営方針について	⑦ 水産振興については、遅ればせながら、海面・陸上養殖の可能性調査の方針が示されました。大いに期待しているが、予算は震災対応であり、継続性を心配している。魚種等限定しているようだが、アワビ、ウニ、タコ、フグ等の可能性も合わせて調査・研究の必要性があると考え。併せて新冷凍システムによる流通等も必要である。更には当然に立地環境、受け皿づくり等の整備についての検討も必要と考える。見解を伺う。	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月6日(水)

質問順位 1番

質問者 議席番号 4番 畠山 茂 議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 「子ども・子育て環境の課題」について	<p>市長は就任以来、「安定した仕事を持って、子どもを幸せに育てられるまち」を掲げ市政運営を行ってきました。経営方針では、「宮古市子ども権利条例(仮称)」の整備や18歳以下の子どもの国保税均等割の免除実施を表明しました。子育て支援については「子ども・子育て幸せ基金」の活用や「子ども・子育て支援事業計画」の推進により、待機児童の解消と子どもの貧困対策に取り組むとしています。</p> <p>しかし、一方で待機児童が生じている事や、子育てと仕事を両立できる環境の整備が必ずしも十分ではないことが課題となっています。事業を通して、待機児童解消と人口減少地域の子育て支援機能の維持を図り、質の高い幼児教育や保育を市民のニーズ応じて提供することが重要と考えます。</p> <p>そこで以下の点を伺います。</p> <p>① 「子ども・子育て支援事業計画」では、「安心して子どもを産み育てられる環境づくり」「子どもの健やかな成長を支える環境づくり」など4つの基本目標を掲げ取り組んでいます。しかし、待機児童の解消は遅々として進まない現状にあります。そこで、当市の待機児童の現状と今後の対策を伺います。</p> <p>② 近年、女性の社会進出や共働き世帯の増加、就労形態の多様化により保育ニーズが増加しています。「子ども・子育て支援事業計画」の子ども・子育て支援ニーズ調査から、母親の出勤時間は7時台が多く、帰宅時間は18時台が最も多いことが分かります。ニーズの多様化に対し延長保育等の充実が必要と考えますが、現状と今後の対策を伺います。</p> <p>③ 「新・放課後子ども総合プラン」では、共働き世帯等の「小1の壁」や「待機児童」を解消するとともに、全ての児童が放課後を安心・安全に過ごし、多様な体験・活動を行えるよう全ての小学校区での放課後児童クラブ実施を目指しています。当市の今後の方向性を伺います。</p>	

質問事項	質問要旨	摘要
1 「子ども・子育て環境の課題」について	<p>④ 本年10月より幼児教育・保育無償化がスタートします。制度では3～5歳児は幅広い施設で無償化となり、入所希望者の増加による待機児童の増加や入所希望の一部施設への片寄り、安全性や質の確保、サービスや地域格差が生じないのか心配があります。無償化に対する市の今後の対応を伺います。</p> <p>⑤ 「子ども・子育て幸せ基金」の事業がスタートをして5年計画の1年目が終了します。事業は民間保育士確保や家庭的保育事業の拡充、子育て世帯への経済的支援等を目指していますが、事業の成果と課題を伺います。</p> <p>⑥ 「子どもの生活環境に関する調査」結果が公表されました。調査結果や分析結果から「世帯の経済状況」や「子どもの教育や生活に関わる状況」、「保護者の就労状況」など、子どもの生活環境や保護者の実態が明らかになりました。今後の課題や対応策を伺います。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月6日(水)

質問順位 2番

質問者 議席番号 9番 橋本久夫議員

質問事項	質問要旨	摘要
1 三陸鉄道一貫運行について	<p>東日本大震災大津波で大きな被害を被ったJR山田線の宮古～釜石間。8年の時を経て三陸鉄道に移管されることになり、本年3月23日に北は久慈駅から南は盛岡駅までの163kmが、三陸鉄道リアス線として一本につながる。今後の課題はいかに利用促進を図るかにある。新たに1本になった路線の利用促進策をどのように考えていくのか、そのことを踏まえ以下の点について伺う。</p> <p>① 新駅の八木沢・宮古短大駅について、現状では短大側からのアクセスが遠回りになる。そちら側からの人々が利用しやすい道路の整備が必要なのではないか。</p> <p>② 運行本数は発表されたが、運賃はまだ発表されていない。利用しやすい運賃となるのか。補助制度なども検討されているのか。</p> <p>③ 交流人口拡大のイメージブランディングの一つに「発着メロディー(駅メロ)」の取り組みがある。三鉄全駅で取り組む考えはないか。</p> <p>④ 宮古～釜石間旧山田線がリアス線に名前が変わったことで、現在の盛岡～宮古間の山田線の名前もそぐわなくなったのではないか。横軸、縦軸をつなぐ促進策のためにも、この路線名称変更の働きかけを検討してはどうか。</p>	
2 インバウンド対策とポートセールスについて	<p>① 大型外国クルーズ船の寄港、ラグビーワールドカップ2019開催などを受けて、これからの外国人観光客を受け入れるインバウンド対策は重要となってくる。商店街などのキャッシュレス化の対応やフリーで移動する観光客への地元コーディネートによる自然体験型観光、郷土芸能鑑賞・体験のプログラム化など様々な取り組みが求められる。インバウンド対策の現状と、今後の取り組みの展望を伺う。</p> <p>② 4月に寄港する外国クルーズ船をはじめとする客船受け入れのための「宮古港クルーズ船おもてなし本部」が立ち上がった。今後、宮古港に寄港する船客に対して、どのようなおもてなしが展開されるのか。その取り組みと、宮古港のポテンシャルを活かした、今後の客船ポートセールスの展望を伺う。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月6日(水)

質問順位 3番

質問者 議席番号 21番 工藤小百合議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 市職員の不妊治療にかかる休暇について	<p>宮城県仙台市が、本年4月から、市職員が不妊治療のための休暇を取ることができる制度を創設することが報道されました。同様の制度を導入する自治体や企業は他にもあり、今後は全国的に広がっていくものと思われます。</p> <p>子どもをもつことを望む人たちが、その望みをかなえられることは、人の一生に関わる問題であり、市にとっても、職員の離職を防ぎ、優秀な働き手を確保する意味で、有効な手段だと考えます。</p> <p>本市でも、市職員が不妊治療を受けるための休暇制度の創設を検討してはどうかと考えますが、市の見解を伺います。</p>	
2 施設設置のAEDの持ち出し利用について	<p>AED(自動体外式除細動器)は現在、市内の公共施設や全小中学校に100台以上が配備されていて、ほかに民間事業所などにも、相当の台数が配備されているものと思われます。</p> <p>AEDの使用が必要な急病人が出た際、こうした施設設置の装置を持ち出したり、貸し出したりできれば、迅速な救急対応に活用できると思われませんが、実際には運用のルールが明確になっていないなどの原因で、十分な対応がされていないのが現状です。</p> <p>そこで、市所有のAEDの運用について、次の点を伺います。</p> <p>① AEDの使用が必要な急病、事故等が市の施設の近隣で発生した場合の市の対応を伺います。</p> <p>② 上記①のような場合に対応するため、施設外持ち出しについてのルールを明確化する必要があると考えますが、市の見解を伺います。</p> <p>③ 施設外への持ち出しにより、装置が破損したり、紛失したりすることも想定しなければならないと思いますが、そうしたことにどのように対応するのか伺います。</p>	

質問事項	質問要旨	摘要
3 避難所の自動開錠について	<p>兵庫県加古川市が今春から、避難所の鍵を収納している保管箱を、災害対策本部から遠隔操作で開錠するシステムの運用を開始するとのことです。</p> <p>このシステムは災害時、電波により保管箱を一斉に開けるものですが、従来の職員による開錠に比べて、住人自らが開錠でき、迅速な避難所開設ができる利点があるとされています。</p> <p>災害時は、職員自身も被災者となる危険もあることから、こうした加古川市の運用は有効なものと思われませんが、市の見解を伺います。</p>	

一 般 質 問 通 告 書

質問月日 3月6日(水)

質問順位 4番

質問者 議席番号 1番 白石雅一議員

質問事項	質 問 要 旨	摘 要
1 「宮古市子どもの権利条例(仮称)」について	経営方針の基本姿勢にある「宮古市子どもの権利条例(仮称)」の整備を進めるためには、市長自らが先頭に立ち、条例制定のための幅広い視野を持った研究組織の立ち上げが必要と考えるが、見解を伺う。	
2 旧宮古警察署の取得、整備について	旧宮古警察署の取得、整備について、NPOなどの各団体が行う公益活動の拠点として、共同事務所や簡易事務所として活用できるスペースを用意する必要があると考えるが、見解を伺う。	
3 地域農業マスタープランについて	経営方針に「「地域農業マスタープラン」の実現に向け、地域の中心経営体の育成・確保を図る」とある。現在のマスタープランは平成25年から実施されてきたものであり見直しの時期に来ている。現状と課題を踏まえ、今後、どのように見直していくのか伺う。	